
生きていてほしかった

暮坂秋津

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生きていてほしかった

【Nコード】

N5398Z

【作者名】

暮坂秋津

【あらすじ】

とある事情を持った恋人たちの逢瀬。フィクションです。

私以外誰もいない駅は、とても静かだ。

たまに電車が行き来するけれど、残念ながら私が待っているのは電車ではない。ゴトゴトと遠くになっていく音に悲しくなっていくばかりだった。

柱にもたれて、「はあ」と息を吐くと、それは白くなって夜空へ上がった。

面白がつて、空を見上げる。今度は短い息を繰り返した。

「何やってんの」

「機関車のマネ」

「お前いくつだよ」

呆れきった声に顔を戻して、目の前で苦笑している彼を睨みつける。彼は肩を竦めて「ごめん」と言った。

「遅いよ」

「ごめん」

「ずっと待ってた」

「ごめん」

何度も何度も繰り返される謝罪。喧嘩をすると、いつもこうだ。私が責めて、彼が謝る。

ああ、懐かしい。やっぱり君とまた逢えてよかった。

思わずじわりと滲む涙。たちまち形になって頬を伝っていくそれは、

地面に落ちる途中で石になってカラリと音を立てた。
地面に転がったそれを見て、思い出す。そうすると、涙はどんどん溢れてきた。

カラリ、カラリと淋しい音はその場に響く。

君と逢えて嬉しいよ。それは本当に本当だよ。でもね、だけどね、
我が儘かもしれないけれどね。

「でも、来てほしくなかったよ」

「…ごめん」

此処は、死者の待ち合わせ場所。

こんな所で、君に逢いたくなんかなかったよ。

(後書き)

説明

やっぱり言葉が足りなかったかもしれないので、此処で少し説明をば。作品のテンションとの差が激しいのでご注意下さい。

この二人は、死んでいます。

女性の方が早く亡くなっていて、恋人を待つために今回の話の舞台である駅にずっといました。

でも、本当は待ちたくありませんでした。だってこれでは恋人の死を願っているようなものですから。

そこは人間の葛藤ですよ。会いたいけれど、逢いたくない。

そして、矛盾した気持ちを抱えたままずっと待つ女性の下に、とうとう恋人が来てしまった。死んでしまったのです。

女性は初め、嬉しくて泣きました。

だけど自分の涙が石になるのを見て、生きていないことを思い出して、迎えに来た彼が死んでしまっている事を悲しんで、泣きました。

このお話を書いて後悔したところは、タイトルやキーワードが既にネタバレだという所でしょうか……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5398z/>

生きていてほしかった

2011年12月18日03時50分発行